

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立松阪高等学校全日制 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		時代の変化に対応し社会に貢献できる人材を育み、生徒・保護者・地域から信頼される進学校を目指します。 ＜自主自律＞ 校訓である「自主自律」の精神を持ち、自ら考え、自ら行動できる人を育てます。 ＜知・徳・体＞ 校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、地域社会の中心的な担い手となる人を育てます。 ＜高い志＞ 心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人を育てます。
(2)	育みたい 児童生徒像	・知的な好奇心や興味を持ち、自ら考え活動する生徒。 ・命と人権を尊重し、思いやりや規範意識を持つ生徒。 ・国際社会で通用する能力やグローバルな視点を持ちつつ、地域社会の活性化や発展に貢献する生徒。
	ありたい 教職員像	・大学受験のための進学指導だけでなく、卒業後の社会を意識させたキャリア教育を行う教職員。 ・創意工夫を凝らした業務の効率化などによる働きやすい職場環境で、いきいきと働く教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 ・学力にあったわかりやすい授業。 ・進路指導に関する知識や見識が高い先生が多い。 ・進路に関する適切で必要な情報の提供。 【保護者】 ・進路に関する適切で必要な情報の提供。 ・子どもの学力にあったわかりやすい授業。 ・学校からの情報提供など家庭との連携を深めること。 【中学生】 ・入学したら充実した高校生活を送ることができる。 ・松阪高校生の生活や活躍(進学実績や部活動実績)の様子がわかる。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	【PTA・PTA 役員】 ・信頼して子どもを預けられる進学校 ・学校の様子を知りたい 【地域住民】 ・学校からの様々な情報提供 ・地域との交流の機会 【大学】 ・より良い生徒の獲得 【卒業生（南窓会）】 ・母校の活躍 ・学校の様子や変化を知りたい	【PTA・PTA 役員】 ・教職員との協力 ・家庭での適切な教育力 【地域住民】 ・学校からの様々な情報提供 ・地域との交流の機会 【大学】 ・体験学習などの受け入れ、出前講座の開催 【卒業生（南窓会）】 ・大学生や社会で活躍する方からの生徒への助言 ・生徒の部活動等へ支援

(3) 前年度の学校関係者評価等		①授業におけるICTの活用に関して、地域的にも小中学校で取組が進んでおり、今後それらを経験した生徒が入学してくることを念頭に、高校でもICTの活用および活用に向けた教員の研修等を進める必要がある。 ②進路選択において、生徒や保護者が視野を広く持って選択ができるよう、指導に一層の工夫が必要である。
4) 現状と課題	教育活動	・65分授業の中で講義や演習をバランスよく配置し、生徒にとって充実した授業を展開するように努めている。 ・ほとんどの生徒が四年制大学への進学を志望している。 ・1人1台端末を用いた学習活動が効果的に機能するよう、ICT活用について、各教科で教材研究を重ね、授業に生かしている。 ・引き続き徹底した感染拡大防止対策に取り組むとともに、これまで中止や規模が縮小となってきた学校行事や探究活動について、地域や保護者の理解も得ながら、取組を進めていく必要がある。
	学校運営等	・全国や地元で活躍する多くの優秀な人材を輩出した歴史と伝統がある。 ・社会や保護者の学校への要求の増加に伴い、学校の役割の肥大化や課題の多様化・複雑化が進行し、教員の業務量が増大し、時間外労働が日常的に行われている。

3 中長期的な重点目標

教育活動	【SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の推進】 SSHを通して、国際舞台で通用する課題探究能力を育成するよう取り組みます。 【道徳教育】 生徒一人ひとりが命と人権を尊重し、思いやりや規範意識を持つ人間に成長できるよう指導の充実を図ります。 【キャリア教育】 大学受験のための進学指導に注力するとともに、卒業後の社会を意識させて将来の職業や生き方について自覚を促すためのキャリア教育を行います。
学校運営等	【地域との交流】 地域活動への参加や近隣小・中学校等との事業連携等を通して、本校生徒が地域との交流を深めるようにします。 【授業改善】 生徒が知的な好奇心や興味を持ち、自ら考え活動する授業の創造もめざし、より効果的な学習指導を実践することができるよう、教員が公開授業や授業研究等を通して日常的に授業改善を進めます。 【働きやすい環境づくり】 会議や研修の精選、校務内容や分掌の見直し等を行い、創意工夫を凝らした業務の効率化や総勤務時間の削減など、働きやすい職場環境づくりに取り組みます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【SSHの推進】	【教務部】 学校設定教科 SSH「探究」で生徒の活動時間の確保に努めます。また、新指導要領の円滑な実施を目指します。 (活動指標: 令和5年度入学生教育課程表を策定する) 【SSH企画推進部】 SSH第Ⅲ期の指定に伴って、探究活動をさらに進めていくため、探究活動を指導する教職員の指導力を向上させる取組を行います。 (活動指標: 探究活動に関する教職員の学習会の実施 1回/年以上、先進的な探究活動を行っている学校視察 1回/年以上)	【教務部】 ・特編授業等を活用して、SSH「探究」の授業時間を確保した。 ・カリキュラム委員会で検討を行い、令和5年度入学生教育課程表を策定した。 【SSH企画推進部】 4月に探究活動の評価の部分で、本校が独自に作成したルーブリックシートの研修会(学習会)を実施できた。学校視察は上半期に1校、下半期に1校を訪ね、先進的な内容を視察した。	
【道徳教育】	【生徒指導部】 (1) 生徒とのふれあいを重んじるとともに、身だしなみ等について生徒の規範意識を醸成するため、朝の登校時にあいさつ運動と服装指導を行います。 (活動指標: 登校時指導の教職員数を3名/日以上) (成果指標: おおよその生徒が朝のあいさつを交わしている) (2) 携帯・スマートフォンの適正な利用について助言や指導を行います。 (活動指標: 携帯・スマートフォン教室の開催(1年次にむけ年1回)、全校集会時の呼びかけ年3回以上) 【人権教育推進担当】 (1) 人権に関する講演会及びLHRを実施するとともに、各学年の人権学習をサポートします。 (活動指標: 各学年における講演会の開催回数を、1回/年以上) (成果指標: 松阪地区高人推 人権アンケート(3年生対象)「人権学習について、積極的に受けたし内容もだいたい理解できた」の割合を70%以上) (2) 教職員の人権意識を高めるとともに、指導力の充実・向上を図るため、校外研修を含む現職教育を積極的に推進します。 (活動指標: 教職員の校外での研修の参加回数を、1人あたり1	【生徒指導部】 (1) 全教職員が協力し、登校指導の教職員数を1日3名以上で行った。地域住民の方とも協力して行うことが出来た。元気に挨拶をする生徒が増えている。 (2) 1年生に向けてスマホ教室を開催した。また、集会時にはことあるごとにスマホに関する呼びかけを行った。 【人権教育推進担当】 (1) 人権講演会を各学年1回ずつ実施。1学年:「部落差別問題」2月 2学年:「障がいのある人の人権」1月 3学年:「性の多様性」10月 人権 LHR の内容 1学年:「これまでの人権学習の振り返り」「部落差別問題」2学年:「障がいのある人の人権に関り、災害時の避難所運営の課題」3学年:「統一応募用紙と進路保障」「高校生活での人権学習の振り返り」各学年人権 LHR については学年団を主とした教職員による事前学習会・検討会を行った。成果指標 95%(人権学習を積極的に受けた生徒の比率) (2) コロナ禍の中、校外研修等への参加が制限された	

【キャリア教育】 【保健管理・保健教育】	回／年以上) (成果指標:教職員の人権に対する意識や意欲、人権に関する知識が向上している) (3)生徒のこれまでの人権活動の成果を継承し、さらに人権意識を高めるため、地域や小学校・中学校での活動等との連携や交流を図ります。 (取組状況の指標:検討回数は、連携・交流の方法や状況に応じて随時) (達成状況の指標:地域や小中の人権活動との交流の機会1回／年以上、生徒の人権に対する意識や意欲、人権に関する知識が向上している) 【図書部】 生徒の進路実現や職業選択の参考になる資料を重点的に収集、提供します。またそれらの資料の利用促進に努めます。 (活動指標:進路関連図書の特集コーナー更新 1回以上／年) (成果指標:進路関連図書が閲覧や貸出でよく利用されている。) 【進路指導部】 進路指導部及び学年団が連携して進路検討会・研修会を実施し、生徒に対する指導内容の充実を図ります。 (取組状況の指標:検討会・研修会の実施回数を各学年4回全体1回以上実施) (達成状況の指標:進路3担(推薦)会議5回以上、2年学力・進路検討会1回以上、1年学力・進路検討会1回以上) 【理数科】 卒業後の社会を意識させて将来の職業や生き方について自覚を促すため大学の研究室や企業等を訪問し、高度な学問や研究を体験する機会を設けます。 (活動指標:東京大学での研修、大学研究室の訪問、卒業生による大学紹介などの機会を年2回以上設ける) (成果指標:理数科1、2年生の大学等訪問回数を1回／年以上) 【保健部】 心身の健康の保持・増進を図るとともに、主体的に健康な生活を送ることができる生徒の育成を目指し、健康教育の充実を行います。 (1年生対象「性に関する教育」の実施、ほけんだより年10回以上発行)	が、三人教研究大会、松阪地区高人推学習会等に、延べ30数名の教職員が参加した。 県教委「人権感覚あふれる学校づくり事業」の指定を受け、授業作りをテーマに、奈良教育大学・赤沢教授を迎え、全体研修会を2回実施した。 (3)2学年生徒を中心に、松阪地区高人推の高校生交流事業に積極的に参加した。人推担当者を中心に、久保中校区同推協の学習会等に参加した。 【図書部】 進路関連図書の特集コーナーを「大学を知るコーナー」とし、進学したい大学・学部・学科について知る、入試問題に出た本を知る、小論文入試対策の本を知ることができるようにした。進路に関するレファレンスがあれば紹介している。 (活動指標:更新1回) (成果指標:閲覧・貸出ともに利用多) 【進路指導部】 進路検討会は3学年で3回(7月、12月、1月)、進路と各担任とのクラス別進路懇談会は3学年で2回(7月、10月)、学力検討会は1学年で2回(4月、10月)、2学年で2回(4月、10月)、3学年で1回(4月)、進路3担会議は6回(4月、6月、9月、10月、11月、1月)実施した 【理数科】 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、東京大学での研修、大学研究室の訪問については、中止とした。その代替としてオンラインなどによる卒業生からのアドバイス会を開催した。また、「大学の先を見据えた進路選択に繋げる」ことを目的とした宿泊研修を県内で実施予定である。(活動指標2回、成果指標0回) 【保健部】『健康教育』 ・1年生対象「性に関する教育」:7月に助産師さんによる講演を実施・ほけんだよりを20回、生徒保健委員会だよりを4回発行『救急体制』・教職員に「スポーツ事故防止ハンドブック」「スポーツ事故対応ハ
------------------------------------	--	---

【教育相談】 【環境美化】	救急体制の充実を図るとともに、ケガ等の予防教育を行います。 感染症予防の取組を行います。(健康観察の実施、欠席者の早期把握、手指消毒液の設置、保健指導など) 【保健部】 すべての教育活動を通して、生徒の悩みや不安の解消に向けた支援や対応を行います。(スクールカウンセラーによる教育相談を年34回実施、教育相談日より年5回発行) 【保健部】 校舎内外の清掃美化の徹底に努めます。(大掃除年3回実施、日々の清掃時のゴミ分別の徹底)	ンドブック」の配布・体育際やスポレク前には生徒保健委員会だよりを配布・担架の増設 『感染予防』 ・毎日の健康観察の実施、欠席者の把握は学年団と協力して実施・手指消毒は各ホームルームや玄関、職員室前などに配置・感染症に関する保健指導は、保健だより配布時に担任教諭から予防ポイントを伝えてもらった。 【教育相談】 スクールカウンセラーは予定どおり年 34 回来校し、多くの生徒・保護者が利用した。教育相談だよりは年 6 回発行した。 【環境美化】 大掃除 3 回実施清掃美化の徹底のため、クラス掲示ポスターなどを利用し啓発した。	
-----------------------------	--	---	--

改善課題

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で、保護者や地域の理解も得ながら学校行事や校外活動を実施した。しかし、理数科の特徴的な行事は今年度も中止や変更となり、引き続き生徒の意識付けという点で補う工夫が必要である。
- ・1人1台端末を用いた学習活動はある程度定着してきた。さらに学力定着・学力向上につながる学習活動となるよう、効果的な ICT 活用について、今後も研究を重ねて指導していく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【地域との交流】	【生徒会】 (1) ボランティア活動等への参加を通して、生徒と地域の交流を図ります。 (活動指標: 生徒に参加を働きかける件数を 4 件/年以上) (成果指標: 参加生徒数を 30 人/年以上) (2) 本校の文化祭に近隣の小学校児童を招待し交流を進めます。 (活動指標: 小学校への参加要請件数と参加の可否) (成果指標: 少なくとも 1 校の児童を招待する)	【生徒会】 (1) コロナ感染拡大防止という観点から、人と人の交流が中心となるボランティアや地域との交流は進まなかった。 (2) 文化祭自体はかろうじて実施出来たが、上記と同様、人が密になる状態を避け、小学生を招待することはかなわなかった。	
【情報提供】	【総務部】 (1) 本校の保護者を対象に、年2回教育内容や子どもの学習状況について理解を深めていただくため、公開授業を行います。 (2) 中学3年生とその保護者を対象に公開授業を行い、在校生の	【総務部】 ・6 月に本校在校生の保護者(約 300 人参加)、8 月に中学生とその保護者(約 800 人参加)を対象に	

	学習状況や学校生活を見学する機会を提供し、中学生やその保護者が本校を身近なものとして捉えることができますようにします。 また、松阪高校の取り組みと魅力を紹介し、本校に対する関心を持たせ、本校への入学意欲を高めるための機会とするため、『高校生活入門講座』を実施します。 (3) 生徒の校内外での活動や地域との交流活動の状況をホームページなどで広報するとともに、報道機関への資料提供も積極的に行い、地域とのコミュニケーションを図り、信頼の構築を目指します。(活動指標: 月1回以上のホームページの更新と報道機関への情報提供) 【授業改善】 【教務部】 (1) 実施された「大学入試共通テスト」の分析を進め、各定期考査等において実際に作問、検討を行います。 (活動指標: 各定期考査において、教科で検討した活用問題を1問以上出題) (活動指標: 実力テストにおいて、思考力養成を目的とした問題を1問以上出題) (2) 本年度入学生より実施される観点別評価を円滑に実施するとともに、基準の検討及び改善を行ないます。 (活動指標: 1年生の初回授業における、各教科の観点別評価を踏まえた成績に関するオリエンテーションの実施) (成果指標: 次年度の観点別評価における具体的基準の策定) (3) 生徒の授業理解度、満足度を向上させるために、各教科で公開授業を実施し、授業研究や協議を通して、授業力の向上を図ります。 (活動指標: 各教科1回以上/年の公開授業を実施) (4) 「生徒による授業アンケート」を実施し、教員個々の課題を明確にします。また、その課題を教科や学校全体で共有し、その後の授業改善に活用していきます。 (活動指標: 全教員・全授業に対して1回/年実施) (成果指標: 授業アンケートの「総合的にみて、松阪高校の授業に満足している」の項目について、生徒の満足度 80%以上) (5) 授業やHRにおけるICT機器の積極的な活用を進めていきます。 (活動指標: 各教科1回以上/週の授業での活用を実施) (活動指標: ICT 機器の利用に関する校内研修の実施を1回以上/年)	した公開授業を実施した。 ・今年度は3年ぶりに、松阪クラギホールで『高校生活入門講座』を中学生とその保護者を対象に実施し、900人が参加した。 ・HPの更新がやや不足で、今後はツイッターやインスタグラムの導入などを検討したい。 【教務部】 (1) 各教科とも共通テストを検証し問題作成の研究開発を実施している。 (2) 1年生の初回授業では、全科目で成績に関するオリエンテーションを実施した。 またカリキュラム委員会で観点別評価について協議し、各教科で情報を共有するとともに、次年度の観点別評価についてその基準を策定した。 (3) 公開授業と研究協議を2学期9月に実施。各教科で授業力向上に活用した。 (4) 3年生は12月にGoogle formを利用して授業アンケートを実施。昨年度よりも項目を絞り、その分自由記述に時間が割けるように工夫した。 集計結果は「総合的にみて、松阪高校の授業に満足している」の項目に関しては約90%の生徒が「そうである」または「ややそうである」と回答。授業に関して、一定の満足度は確保できた。 なお1・2年生は3月初旬に同アンケートを実施予定。 (5) 全体での研修会は実施できなかった。しかしGoogle for educationやロイノートを中心として職場内で情報交換は活発に行われており、ICT活用の土壌は育っている。 日頃の授業の中では各教科の特性に合わせ、教室設置のプロジェクターを活用しながら授業が展開されている。
--	--	--

【働きやすい環境づくり】	【進路指導部】 1、2年生において、全員受験の模試の結果分析を進路指導部主導で行い、本校生徒の課題点を明確にし、授業改善に活用します。 (取組状況の指標:1・2年生 年3回以上実施) 【組織全体】 (活動指標) (1)時間外労働時間を0.4時間/月削減し30時間以下とします。 【30.0時間/月】(昨年度 30.4時間/月) (2)休暇取得日数を1日/年増加します。 【平均 22.6日/年】(昨年度 21.6日/年) (3)年360時間を超える時間外労働者を出しません。 (4)月45時間を超える時間外労働者を出しません。 (成果指標) (1)定時退校日を月に1日設定し、設定した日の定時に退校できる職員の割合90%を目指します。 (2)部活動休養日を週に1日設定し、予定通り休養日を設定した部活動の割合100%を目指します。 (3)60分以内に終了する職員会議の割合を90%以上にします。	【進路指導部】 1、2年生とも模試の結果を全職員に共有し、授業の改善にも十分に活用できた。(1年4回、2年6回) 【組織全体】 (活動指標) 4月から1月の集計 (1)29.4時間/月 (21.5時間/月) (2)16.9日(17.3日) (3)24人(13人) (4)112人(92人) ()内は昨年度 (成果指標) (1)93%(94%) (2)100%(100%) (3)36%(5回/14回) (46%(6回/13回))
改善課題		
・今年度からBYODが導入されたが、通常の教育活動の中でどのように効果的な活用を推進していくか、学校全体で研究を継続していく必要がある。 ・教員の過重労働は縮減されていない現状があり、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。		

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	・地域からの松阪高校に対する期待は大きい。教職員が親身になって生徒とコミュニケーションを取っており、松阪高校の良さであると思う。 ・1人1台端末の購入など、保護者の経済的負担が増加している。今後、負担軽減についても引き続き検討が必要である。
--------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・「基礎学力定着支援シート」や「授業アンケート」の活用、「大学入試共通テスト」の結果を教科ごとに分析し、PDCAを回すことで、日々の授業改善に生かしていく。 ・ICTを活用した効果的な学習の推進について、「人との関わり」の重要性や教職員の負担増等にも留意しながら丁寧に進める。
学校運営についての改善策	・指導や業務を見える化をすることで、縦横の連携強化と業務の平準化を目指す。 ・報告の徹底と情報の共有を進めるための仕組みを整える。